

桑野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学びの楽しさを実感できる主体的・協働的な授業の構築。
- 一人一人の児童に応じた個別最適な学びの充実。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 平山 美久	委員	校長 教頭 教務 研修 特別支援コーディネーター	山中 正広 兼 有紀 平山 圭子 新谷 美久 田中 和樹
	校長	山中 正広	山中 正広

校長

山中 正広 印

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、教員からの報告や研修等を踏まえ、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み書きや基本的な計算については75%程度の定着が見られる。 ○視写学習や読書の継続により語彙力の高まりが見られる。 ●学年が上がるごとに既習の学習内容が定着している児童とそうでない児童の二極化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で既習事項を振り返るなどして、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ・80%以上の児童が内容や要旨をとらえたり内容を正しく理解したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやデジタル教科書を効果的に使用し、授業のユニバーサルデザイン化や個別最適化を図る。 ・朝の活動を効果的に活用し計算、漢字の読み書き等の基礎的な学力を定着させるよう努める。 ・実施状況を評価して改善を図りながら一人一人の学びを重ねていく場の設定をする。 			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○根拠となる理由を表現する話形を示すことで児童が意識して書いたり発表したりできるようになり、理由を説明できる児童が増えてきた。 ○タブレットを使って工夫し、分かりやすく発表できる児童が増えている。 ●友達の見解と結びつけたり比べたりして考えを深めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習に臨み、理由が明確になるように自分の考えをまとめたり内容を吟味したりしている。 ・80%以上の児童が根拠や理由を明らかにし、友達の見解と結びつけたり比べたりしながら自分の考えを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の考えを確かにもたせ、ペア学習や小集団学習などの話し合いの場を効果的に設定し、聞く力をつけ、さらに自分の考えを発信できる場の設定を多くつくる。 ・特定の児童だけが発信するのではなく、多くの児童が発信できるような学級の雰囲気作りや仕組み作りを行う。 			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活の問題や課題に対して自分事として考え、解決しようとする児童が増えてきている。 ●読書習慣が身につけてきている児童とそうでない児童の二極化が見られる。 ●自ら課題を見つけたり、得意なものに対して主体的に取り組んだりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習課題を見つけ、課題の解決に主体的に取り組んだり、学んだことを生活や学習に生かそうとしたりしている。 ・70%以上の児童が学校や家庭で進んで読書することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主勉強の仕方を例示したり、工夫されたノートなどを学級や学校全体で共有することで意欲を高める。 ・学習を振り返る場を設定し、プラスのフィードバックをする。 ・家庭読書の日を毎月第2土曜日に設定し家庭への啓発も学級通信などで積極的に行うなどして親子で読書に親しめるようにする。 			

令和6年度 学力向上ロードマップ

